

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

児童の主体的な学びを展開させるため、ICTを効果的に活用した学習指導の工夫する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長:岩川計成 副校長:清田朝美 教務:古川圭三 1学年主任:宇野貴美恵
2学年主任・研修主任:田上晶代 3学年主任:福長裕江 4学年主任:中野善子
横手 里佳 5学年主任:横手里佳 6学年主任:助岡洋子 特別支援コーディネーター:前川佳世

校長
岩川 計成

【各校の取組状況の把握について】

- ・学力向上に関する校内研修やアンケートの実施
- ・学年団による話し合い後、文書報告

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●既習の知識・技能を活用する力が十分でない。 ●読書量に差があり、語彙力が十分でない。	・学習準備を整え集中して学習に取り組むことができる。 ・漢字や計算など基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける。 ・既習の知識・技能を、学習や生活と関連付けて活用できる。 ・読書や新聞を活用し、語彙力を高め正しい言葉で文章を書くことができる。	・朝の活動において曜日を設定し、継続的に漢字・視写・音読・計算など基礎的・基本的な内容の習得を図る。 ・読書の楽しさを児童に体感させ、進んで読書に取り組めるような環境づくりをする。 ・タブレット端末の活用について研修を行い、積極的(毎日)に授業等で活用し、児童が日常的に使用できるようにする。	・漢字を文章の中で正しく使えていない児童が多い。 ・日記や各教科の書く活動において、既習漢字を使う習慣をつけさせる。 ・ローマ字習得のためにタイピング練習を行う。	・漢字や計算の繰り返し練習や既習漢字を使った文作りをすることで定着率が上がった。 ・朝の読書をする時間を確保したり、隙間時間に電子図書を活用したりすることにより、読書への関心は高まった。 ・タブレット活用の研修を行い、情報主任から積極的な情報提供があったが、学年や学級によって活用状況に差がある。	・基礎基本の習得を土台として踏まえ、日常生活での活用力を高める。 ・毎週配布される子ども新聞等を活用し、語彙力と表現力を高める方策を工夫する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットの活用で思考の共有が効果的に行え、考えを深めることができるようになってきた。 ●話し合い活動などで意見を聞き、自らの考えを深めたり相手に伝えたりする力が十分でない。	・自分の考えを整理し、順序だてて話すことができる。 ・考えや思いを適切に文章に表現することができる。 ・相手の話をしっかり聞き、自分の意見をはっきり伝えることができる。 ・語彙を増やすとともに、豊かな表現力をつける。	・授業中、児童の思考につながるよう主発問を吟味し、思考の時間を十分に確保するとともに互いの考えを話し合う時間をとる。 ・児童がICTを活用する授業を行い、考えを深めたり意見を交流したりする場面を設ける。 ・個別のニーズに応じたタブレット使用の指導・支援環境を整える。 ・ホワイトボードなど児童の思考を助けるツールを活用していく。	・人前で自分の考えを伝えることが得意ではないと考える児童が多い。 ・引き続き、言葉だけでなく、図・タブレット・ホワイトボード等を用いて、思考を助けるツールを活用していく。	・タブレットを活用し、自他の考えを共有することにより、思考の深まりが見られた。 ・ホワイトボードは、グループの意見をまとめたり、個人の考えを提示したりすることに活用し、思考の深まりが見られた。	・人の意見をしっかりと聞き、繋げて、深めていくことができる主体的な学習姿勢を保障した授業づくり。 ・人に伝えることを意識し、声の大きさや発表の仕方を考えさせる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習のルールを守ろうと努力し、落ち着いた取り組みをしている。 ○ICT活用により、児童の学習意欲が高まってきた。 ●指示されたことはできるが、自ら課題を見つけ、解決していこうとする力が弱い。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや分かる喜びを感じることができる。 ・学習の振り返りから、自分の新たな課題をつかむことができる。 ・ICTを意欲的に活用し、探究的に学習に取り組むことができる。	・直接体験やオンライン教材を積極的に活用し、児童が主体的に取り組めるようにする。 ・各時ごとに「ふりかえり」の機会を設け、次時の学習に生かす。 ・ICTの活用について、教職員自身が研修を深め意識改革を図る。 ・家庭や地域との連携を生かした授業展開を行う。	・校内研修による情報交換などから発達段階に応じてICTの活用ができていくので、さらに活用の工夫を工夫していく。 ・「めあて」と「ふりかえり」をセットで考え、自己の学びが明確になるようにする。	・タブレット操作に慣れ、レイアウトや編集力が高まり、多様な表現ができるようになった。 ・振り返りを行うことで、自分の理解度が分かり、家庭や自主学習での意欲付けとなった児童もいるが、まだ十分ではない。	・相手意識を明確にし、自分で解決していこうとする形骸化しない生きた学習課題の設定を目指す。 ・ICTを授業の中でいかに有効的に活用するかなど、教育課程全般での計画性や研修が大切である。

令和5年度 学力向上ロードマップ

